



ユニオン、一時帰休で雇用危機を煽る！その2 会社ファーストで春闘破壊？！

本紙No.2561でJR東海ユニオン指導部が雇用危機を煽っているとお伝えしました。『ぎょうむそくほう』No.1376に加え、同紙No.1377では「雇用確保を大前提に、組合員に不利益が生じないように…」 「一時帰休による潜在的な雇用不安といったことが、それぞれの立場で生じます」などと、更に強調しています。職場での雇用不安の声は、JR東海ユニオン指導部が意図的につくっているのではないのでしょうか。

雇用不安を煽る目的ですが、昨年の年末手当団体交渉における会社の主張や、JR東海ユニオンの対応を見れば分かります。JR東海ユニオンでさえ、あれほど「安定的支給ベース」と主張していたのが、不満一つ言わずに妥結したのです。年末手当を超低額に抑えたい会社にしてみれば、JR東海ユニオンが2.9ヶ月の要求を出したことがよろしくないことなのです。会社の立場で考えて見れば、春闘でも昨年並みの要求を出してもらっては迷惑なのでしょう。つまり会社は、今春闘を破壊しようとしていると考えられます。

会社ファーストの立場を貫くJR東海ユニオンは、会社の意向を受けて「雇用か賃金か？」を後ろ盾に、賃上げや夏季手当の要求を低額に設定するのではないのでしょうか。

JR東海ユニオン組合員の皆さん、どの程度の要求を掲げるか注目しましょう。要求が少ない場合は、文句を言いましょう。